Osaka University Knowledge Archive

Title	教育システム改善へのサイバーメディアセンターの貢献
Author(s)	西尾, 章治郎
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2013, 14, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70346
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

巻　頭　言

教育システム改善へのサイバーメディアセンターの貢献

サイバーメディアセンター長　西尾 章治郎

サイバーメディアセンターが平成 12 年度に創設されたのに伴って初代センター長を務めてから 13 年後の本年度より、図らずも 2 度目のセンター長を拝命いたしました。本センターのさらなる発展のために微力ながら精進してまいる所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。

本フォーラムの創刊号は平成12年9月に刊行されましたが、その折は「センター設立にあたって」という巻頭言を執筆しました。本センターは、平成 11 年度まで学内共同教育研究施設であった情報処理教育センターを組織的に組み込む形態で創設されております。この情報処理教育センターでは、「広報」という刊行物を継続的に発行し、情報処理教育計算機システムの利用者にシステムに関する最新情報を提供して利便性の向上を図るとともに、多くの利用者からご寄稿いただき、相互の情報交換の「場」として有効に機能しておりました。その「広報」の流れを活かしながら、さらに充実した広報誌を作成することを目指して関係者が種々議論し、また、その新たな名称も検討して「サイバーメディア・フォーラム」とした経緯があります。これまで本フォーラムが継続的に刊行されて、この度、第 14 号の発行の運びとなりましたことは、大きな喜びとするところです。

我が国では、グローバル社会において競争力が低下する中で、さまざまな場において、教育改革の必要性に関する議論が行われています。今後、成長力を高めていくためには、ものごとに主体的に対応できる人材の育成が重要であり、学士課程教育の質的転換など、大学における教育システムの改善が喫緊の課題となっています。

特に、平成 24 年 8 月の中央教育審議会の答申においては、「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修（アクティブ・ラーニング）への転換が必要」とされています。

その一環として、教育振興基本計画（平成 25 年 6 月閣議決定）では、基本的考え方として、学士教育において、アクティブ・ラーニングや双方向型の授業を中心とした教育の質的転換のための取組を促進することが明示され、主な取組として、学生の主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化、情報通信技術(ICT)を活用した双方向型の授業・自修支援など、学修環境整備への支援も連動させながら促進することが謳われています。特に ICT の活用に関しては、例えば、近年急速に広まりつつある MOOC（大規模公開オンライン講座）による講義の配信やオープンコースウェア(OCW)による教育内容の配信など、大学の知を世界へ開放するとともに大学教育の質の向上にもつながる取組への各大学の積極的な参加を促すこととなっています。

本学においてもアクティブ・ラーニングに資する学修環境として、ここ数年間にわたりラーニング・コモンズ、グローバル・コモンズ、さらにステューデント・コモンズが整備されてきました。これら 3 つのコモンズの学修環境の相互連携による一層の機能向上を実現し、本学ならではの特徴あるアクティブ・ラーニング環境の構築により世界をリードすることに、サイバーメディアセンターが貢献することには大きな意義があります。そのためには、今後、サイバーメディアセンターと図書館および全学教育推進機構とのより強い連携関係がますます重要になるものと考えています。